

やまぐち

桜の森

2011.10 第8号

通信

山口県立大学広報誌



[特集I]

卒業生インタビュー

「～県内で活躍する卒業生～」

学生紹介

サークル紹介

この半年の出来事

[特集II]

創立70周年記念式典 採録

「愛され続ける母校」

研究室紹介

講義紹介

相談の森

トピックス

キャンパススケジュール



Yamaguchi Prefectural University
70th Anniversary



卒業生インタビュー ～県内で活躍する卒業生～

本学の卒業生は様々な分野で活躍しています。
今回は、その中から県内で就業されている方々のメッセージを紹介します。

Question

- 仕事の紹介（内容・やりがい・苦労等）
- これからの抱負
- 山口県内を就職先を選んだ理由 など…



Message

国際文化学部 国際文化学科



2007卒 空田 彩佳さん
山口県立萩商工高等学校 英語教諭

本校は、商・工業系が統合された専門的分野を生かした各分野のスペシャリストを育てることを目標としている萩商工高等学校です。ラグビーの強豪校としても有名です。

ここで、4年前から英語の教諭をしています。現在、総合ビジネス科2年生の担任として英語(英語II・OC・writing)を指導しています。英語をより身近に感じてもらえること、また、高校生活を通じて社会に出た時に力強く生き抜くことのできる人材を育てることを目標にしています。

女子バスケット部の顧問として連日指導をし、土・日曜日は練習試合の遠征の引率など、毎日バスケット漬けの日々です。バスケットの練習や試合を通して、「人の話を聞



くこと」、「辛抱すること」の大切さなど基本的なことが伝えられればと思います。時には人を指導すること、やる気にさせることの難しさに悩むこともありますが、生徒達の心の変化をみるにつけ喜びを感じています。また、県大時代の友人とたまに会ったりしてリフレッシュしています。

縁あって地元で就職した訳ですが、人々がとても温かく、居心地が大変良いです。今では他県に就職した友人が帰省した時に、逆に彼等を迎えることに喜びを感じています。

学生時代に私自身が感じたように、県立大学はいろんなことを実現できるサポート体制が充実しています。「若い」今こそ何にでも挑戦してもらいたいです。そういう気持ちを持ち続けることは、社会に出た時に必ず役立ちます。

これから、10月開催の山口国体のカヌー競技のボランティアとしてのお手伝いをして、生徒達と一緒に応援しようと頑張っています。



Message

国際文化学部 文化創造学科



2011卒 中村 友理子さん
株式会社ビジネスアシスト 企画営業

お店・求人・お住まい情報の3種類のフリーマガジンを編集、発行している株式会社ビジネスアシストで営業企画を担当しています。月1回発行の「お店情報誌 MOTTEKE」のスタッフとして主に山口市内のお店を受け持ち、取材・打合せ・撮影→原稿作成→校正→発行→反応調査(リサーチ)等の業務に従事しています。

デザインを勉強していたので、出版・制作会社に興味がありました。今は営業ですが、人と話すことが好きなので、直接お客様と接することでじかに反応がわかり、反響の多かったときには感謝

いただき、たいへん嬉しい思いをします。お客様からの「ありがとう」が一番の仕事の励みです。「山口が好き」なので地元で就職し、職業柄地元をもっと盛り上げたいと思っています。

まだまだ社会人としては未熟ですが、上司に言われた「絶えずアンテナを張り巡らし、何事にも興味を持ち、好奇心と広い視野を持つことが大事だ。」という言葉に胸に、いつかは「困ったら中村へ」と言われるアドバイザーのような営業担当者になりたいと思います。



Message

社会福祉学部 社会福祉学科



2009卒 榎本 浩司さん
岩国市役所 高齢障害課

岩国市役所にて知的障害者の療育手帳に関する業務や障害者相談支援事業の委託業務(委託・調整・報告等)、また、障害者の成年後見制度利用に関する業務等に従事しています。

一般行政職として入庁し、高齢障害課に配属、今年で3年目を迎えました。

学生時代に社会福祉学を学んだので、この職場における基礎知識はありましたが、現場で障害をお持ちの市民の方々と向かい合う際には、よりわかりやすく、誤解を招かないように気を付けています。また、市の職員として「全体の奉仕

者」という立場を常に心がけるようにしています。

地元の山口県に就職したため偶然、中学生時代の恩師と仕事上で関わりができ、生徒の時とはまた違った良い関係を築けています。

大学生活では、サークル(トイズ)を作りいろいろな活動を通じてかけがえのない友人にも恵まれ、今でも定期的に会っては情報交換をしています。

地域主権の流れの中で、基礎自治体である市の機能強化は必然であり、今まで以上に能動的に情報収集・勉強に努めたいと思います。





Message

看護栄養学部 看護学科



2011卒 赤川 由佳さん
山口県立こころの医療センター 看護師

本院は、県下唯一の県立精神科病院として、精神科救急医療・重症患者への対応を最重要課題とした宇部市にある病床数180の医療センターです。

本年4月から地方独立行政法人としてスタートしました。

私は急性期患者さんの入院病棟で日々のケアにあたっています。心のケアを中心に「患者さんの不安に寄り添い、治療がスムーズに進むよう」心がけています。

精神科は「患者さんと向き合う医療」ということを実習を通して強く感じ、自分の目指す看護に

近いという印象を受けました。まだ入職1年目で日が浅いので、早く仕事を覚え、自信を持ってケアを提供できるよう努めたいと思います。また職場の雰囲気も良く、やさしくも厳しい先輩に指導を受け充実した毎日を送っています。

地元で就職し、身近に家族や友人がいますので何かと心強さを感じています。母も同じ看護師ですのでいろいろ相談したり、アドバイスを貰っています。

これからも、個々の患者さんに合った対応ができるように頑張りたいと思います。



Message

看護栄養学部 栄養学科



2006卒 河邊 陽子さん
※生活科学部栄養学科(当時)
小郡第一総合病院 管理栄養士

栄養障害やそのリスクのある患者さんの栄養状態の改善を目的とした栄養サポートチーム(NST)の専従者として、患者さんの栄養管理に従事しています。

週に1回行われるカンファレンスと回診に備えて、事前に患者さんの治療状況・栄養状態などを資料として作成し、必要な栄養量やどのような方法で栄養補給をするかなどを提案します。

食べられなかった患者さんに食欲がでてきて、食べられる喜びの笑顔を見る時や、NSTの介入によりチームの評価を頂いた時などは今の仕事に大変誇りを感じます。

ただ、一般にNSTの認知度もまだまだ低いので活動の普及に努めたいと思います。

また、山口県栄養士会病院栄養士協議会の専門委員としての活動や人工透析の必要な患者さんのための冊子「透析食 レシピ集」の編集・発行に携わりました。昨年は県立大学の栄養学科シンポジウムに招かれて、在学生に話をさせていただきました。

大変な時もありますが、そんな時は病院の卓球部に所属していますので、汗をかいてリフレッシュしています。山口県は地元ですので、管理栄養士の先輩も多く、その活動がとても刺激になりますし、いろいろな相談にもっていただいています。

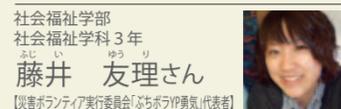
今後は、日本糖尿病療養指導士の資格を取得しましたので、より一層地域の方々に貢献できるよう、また患者さんからの厚い信頼を得られるように努めたいと思います。



Student's Interview 学生紹介

いま、キミは輝いて

今、私たちにできること



社会福祉学部 社会福祉学科3年 藤井 友理さん
[災害ボランティア実行委員会「ぶちぼら」代表者]

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。その被害は甚大なもので皆さんもニュース等で目にされたことと思います。「ぶちぼら」は、「ぶちぼら」の発信がもととなり立ち上がった災害ボランティア実行委員会で、約30人が活動しています。

私は、4月末に実際に現地でのボランティア活動に参加し、ささいな支援が現地の人たちの笑顔につながることを実感しました。そして山口からでもできることはたくさんあるはず、と現在、以前から交流のあった岩手県立大学と連携を図り、現地支援・ニーズ把握班、シュシュ班、募金班、うちわ班、広報・啓発班、安全ブザー班に分かれて活動しています。ボランティア勉強会や壁新聞の作成などを行いながら、これまで実際にメッセージうちわ774枚やシュシュ(髪留め)200個を手作りして現地に送りました。これらは岩手県立大学を通して現



被災地へむけての手づくりうちわ制作

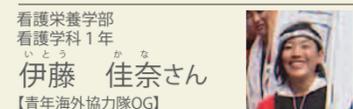
地の方に配られ、使っていただいています。最近では、新聞やラジオなどにも取り上げていただいたり、地域の方からも寄付をいただくなど、活動の広がりを感じています。これからも私たちにできることを考え、皆さんの思いをカタチにしていきたいと思っています。

※「ぶちぼら」とは、社会福祉学部の学生らが「学生による学生のためのボランティアセンター」として設立した「山口県立大学ぶちぼらボランティアセンター」の愛称。ボランティアは特別なものではなく、身近なもの・楽しくできるものという考えを学生に知ってもらうためのボランティア活動の啓発、県立大学でのボランティア活動支援、及び地域のボランティア支援機関の周知などを行っている。



立ち上げ当初から活動している社会福祉学科3年生
前列 左:波田野未奈さん 右:山中夢実さん
後列 左:田村未希さん 中:神野知奈美さん 右:米重美和子さん

今ここで学ぶ



看護栄養学部 看護学科1年 伊藤 佳奈さん
[青年海外協力隊OG]

私は、縁あって山口県立大学に社会人入学させて頂き、現在、人生2度目の大学1年生をしています。入学前は、青年海外協力隊でガーナ共和国に派遣され、2010年6月までの2年間、理数科教師として、小さな高校で活動していました。当初は、帰国後、環境教育に携わりたいと

考えていたのですが、活動期間が1年を過ぎた頃、ガーナの子どもたちと日々関わる中で、命の大切さ、尊さに改めて感動し、その時から、助産師になりたいと考えるようになりました。本学入学後、ガーナでの自分の経験を在学生の前で語らせていただく場を設けていただき、今回、広報誌への執筆の機会も含め、大変ありがたく思っています。個性あふれる本学での学びはとても充実しており、最近では、本学の授業の一環で、地域の「もりさま祭り」を準備から本番、打ち上げまでを行うという、ガーナでの体験に勝るとも劣らない体験をさせていただきました。

4年間で、念願の助産師になるための勉強はもちろん、命、家族、地域、社会問題などアンテナを高くして学びながら、たくさんの人・機会との出会いを大切にしていきたいと思っています。

11月12、13日に「アフリカ&パーカッションフェスティバル」と題しまして、ルルサス防府にて、アフリカの音色と共に、来て下さった方の五感・衣食住を楽しめるイベントを行います。青年海外協力隊OB・OGも参加します。是非、お越し下さい。[問合せ先: 0835-38-4422 (防府市市民活動支援センター一付)]



青年海外協力隊としてのガーナでの活動の様子

Circle Report

料理サークル「ヤムヤム」



看護栄養学部 栄養学科3年 ヤムヤム部長 西村 弥恵さん

楽しくおいしくをモットーに!
料理サークルヤムヤムは、現在3年生6人、2年生3人、1年生1人の計10人で活動しています。月1・2回、季節や行事にちなんだテーマを決めているいろ

サークル紹介

な料理を作り、皆で楽しく食事をしています。発足4年目の新しいサークルですが、昨年は全国規模で開催された「バランス弁当コンテスト」に出品し、入選をいただきました。また、作ったバランス弁当の作品は本にも掲載され、今後の励みにもなりました。今年は各個人で様々な料理コンテストにチャレンジしています。

ヤムヤムでは料理の腕を磨くのはもちろんですが、何より食事を楽しむこと



を大事にしています。同じ料理でも1人で食べる時と友達と食べる時、悲しい時と楽しい時、その状況や心情でおいしさは変わるからです。楽しくおいしく思う食事をこれからも大切にしていきたいと思っています。



▶▶▶ YPU New Wave

この半年の出来事

今年4月から9月までの主な出来事について、報道発表(ニュースリリース)したものを中心に紹介します。

4/4

○平成23年度入学式

桜満開の暖かい春空の下、学部生322名、3年次編入生25名、大学院生25名の計372名の入学式を挙行了しました。



入学式での入学生宣誓(看護栄養学部栄養学科 勝井紀江さん)

4/12

○「やまぐち中山間地域づくりサポートセンター」開設

県内の大学生や専門学校生等による地域づくりを支援する取組が、安定的に発展・継続できるよう支援するための組織として「やまぐち中山間地域づくりサポートセンター」が本学に設置されました。大学生等の外部人材による自発的な地域づくりの実践活動の支援や、「やまぐち中山間地域づくり支援サイト」の運営に関することなどを主に行い、地域の活性化に寄与します。



本学の附属地域共生センター内に設置されているサポートセンター

4/15

○基礎セミナー開講～おいでませ!山口大会「選手団サポートボランティア」の養成スタート～

今年度の新一年生の必修科目「基礎セミナー」では、「共生社会」をテーマに、共生の理念やボランティアとして活動するための学習を行った後、本年10月に開催される「全国障害者スポーツ大会(おいでませ!山口大会)」をフィールドワークの場とし、学生ボランティアとして参加します。大会では、参加選手が快適な環境で競技できるよう、おもてなしの心を持って、送迎や案内、介助、応援などのサポートを行います。

開講に当たって、二井山口県知事が本学を訪れ、「若さあふれる活動で頑張ってもらい。」と激励の言葉を述べられ、学生の代表(国際文化学部文化創造学科 尾田さん)に大会マスコット「ちよるる」の縫いぐるみを手渡されました。尾田さんは、「少しでも社会に貢献できるようにみんなで一丸となって頑張りたい。」と気持ちを語りました。



二井知事から、学生代表 尾田さんへ「ちよるる」贈呈



記念式典(学長式辞)

5/21

○創立70周年記念式典

本学創立70周年を迎え、講堂で記念式典が開かれました。小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトに携わった宇宙航空研究開発機構(JAXA)の吉川真准教授の講演があり、約550人の参加者の方々が節目を祝いました。



学科ごとのオリジナルTシャツで1年生が団結する午前の部

6/4

○山口県立大学学園祭「水無月祭」

学生による実行委員会主催の「水無月祭」が開催されました。伝統的騎馬戦やダンス等のステージイベント、模擬店などで午前の部、午後の部ともに活気あふれる大学祭となりました。

6/13~6/17

○姉妹大学交流・公開レクチャーの開催

海外大学との学術交流協定に基づく教員交流の取組みとして、フィンランドのラップランド大学から、社会科学学部ソーシャルワーク学科 教授 タルヤ・オルヤスニエミ氏をお迎えし、本学の教員や学生への講義など様々な交流を行いました。講義の一部は、市民の方々も対象に公開レクチャーとして開催され、充実した時間を過ごすことができました。



講義を行うタルヤ・オルヤスニエミ氏



県内小学校との交流もありました。

6/25~7/16

○グローバル学生交流

今年も、本学と学術交流協定を締結している曲阜師範大学(中国)と慶南大学校(韓国)から学生を迎え、約3週間にわたって、学内外の様々な場所で、本学学生や地域住民の方々との交流を行いました。

7/4

○3大学と山口県中小企業団体中央会との連携協定を締結

本学と、山口東京理科大学、山口学芸大学は、平成21年度文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択された事業の一環として、山口県中小企業団体中央会と連携協定を結びました。この協定は、大学と企業が連携して行う地域の諸課題解決に資する研究や、大学生に対するインターンシップ・企業説明会等による人材育成など、地域社会の活性化と地域に係る諸問題解決につなげる取組の展開を目的とし締結されたものです。



連携協定書調印式

7/16~7/17

○オープンキャンパス

高校生やその保護者の方を対象に本学のキャンパスを開放し、入学試験や学部・学科の概要説明、模擬授業、キャンパスツアー等を実施しました。今年度は開催期間を2日間に拡大して、多くの方に参加をいただきました。



相談コーナーの様子



協定書

8/1

○宇部蒲鉾株式会社との包括的連携・協力に関する協定を締結

この協定は、人的・知的資源の交流及び活用を図り、協力して地域の活性化に寄与するため、人材育成や商品開発について連携協力することをその内容としています。



式典で行われた開設宣言の様子

8/3

○e-quality仮想的大学開設式典の開催

本学に於いて、e-quality仮想的大学の開設式典が行われました。e-quality仮想的大学は、山口県立大学、山口東京理科大学、山口学芸大学の三大学が中心となり、高等学校、地方自治体、地域試験研究機関との連携によりバーチャルな学習空間を高校生、大学生、地域住民に提供し、地域活性化に資する取組の展開と人材育成を目指します。

8/8~8/9

○高校生対象夏季公開講座

県内の高校生を対象に、本学での授業体験を通して大学で学ぶことの意義や今後の進路について考えを深めてもらうため開催しています。当日は、多くの高校生が来学し、有意義な1日を過ごしました。



看護栄養コースの授業体験

9/4~9/9

○本学訪問団がスペイン・ナバラ州立大学を訪問

江里学長を団長とする訪問団が本学と学術交流協定を締結しているスペイン・ナバラ州立大学を訪問し、相互発展に向けた学術協議を行いました。



学術協議の1コマ



愛され続ける母校

昭和16年に山口県立女子専門学校として産声をあげた本学は、様々な方々に支えられながら、女子短大、女子大、男女共学化、そして中国四国地区の公立大学の中で初の独立行政法人化と歴史を重ね、今年70回目の誕生日を迎えました。

本学は、節目を迎えたこの年を、未来へのさらなる発展の契機にすべく年間を通じて記念事業を行っています。今回は去る5月21日に開催された記念式典などの様子を紹介します。



記念式典概要

東日本震災犠牲者への黙祷が捧げられ、本学講堂にて式典が始まりました。「70年の歴史を継承し、常に時代と地域への要請に対応しながら、「地域貢献型大学」として成長、進化を続けていくべく教職員一丸となって精進したい」と江里学長が式辞を述べました。その後、岡田実・山口県副知事、新谷和彦・山口県議会副議長、浅田尚紀・公立大学中国・四国地区協議会議長（広島市立大学長）から温かいご祝辞をいただきました。本学の学校運営や学生サークル活動に対し、多大なご貢献をいただいた10名の方々への感謝状贈呈も行われ、会場全体が70周年を記念する雰囲気になりました。



式典に寄せて 「みんなが一つになれる！」

学長 江里 健輔



本学は、今年、創立70周年を迎え、去る5月には記念式典を開催いたしました。これも県民の皆様をはじめ、卒業生や関係者の方々のご支援の賜と厚くお礼を申し上げます。

私は、この機会に、あらためて本学の70年の歴史を紐解いてみました。セピア色の写真の中の創立時代の初々しい女子学生の授業風景や戦中の軍事訓練の様子、大学昇格時の署名活動、着々と建設される学舎、外国大学との学術交流、学部再編や独立行政法人化の議論など、如何に多くの先輩方が本学をより魅力ある大学にしようと一生懸命努力されてきたことか、胸が熱くなる感慨を覚えました。

母校を通して、世代を超えてみんなが一つになれる。卒業生の母校を愛する気持ちを受け止め、地域に貢献できる大学、世界につながる大学を目指して、本学の新たな歴史を切り開くこと、これが今の私たちに課せられた使命だと強く思った1日でした。

卒業生代表のこぼ 「多彩な変化と 発展を!!」

校友会会長・山口県立大学名誉教授
福田 百合子さん（昭23・国語科卒）



1945年8月、山口県立女子専門学校に入学しました。現在の中庭あたりがグラウンドで、草取りの最中に戦争がなくなったことを知りました。熱い汗と涙を流した夏が忘れられません。そして本年、東日本大震災という大困難と、大転換期に、母校創立70周年記念を皆様と共に迎えることの因縁の深さと、有難さを思い感慨無量です。

諸先生、諸先輩、地域の方々から伝えられる教え、薫陶の数々を心より感謝致します。

薫陶という言葉の意味を噛みしめています。郷土工芸の粋、萩焼が、陶土をこね、形を造り、炎をくぐって、初めて器として成り立つように、私たちは多くの過程、導きをいただいて成長します。更にその器は、七変化と呼ばれる七変化をします。大切に使い込み、関わりを深めることによって多彩な展開を遂げるのです。70周年を期に、萩の七変化のように、母校の多様な、更なる発展を念願致します。



在校生代表の言葉

国際文化学部 文化創造学科 2年
学生自治会執行委員長
一木 幸之佑さん



「私たちが充実した学生生活を送ることができるのは、本学の歴史と伝統の結果だと思う。私たち学生も、記念式典を機に、今一度70周年の重さに思いを馳せ、本学のさらなる発展につながるよう頑張りたい」と述べました。

70周年記念講演レポート 帰ってきた「はやぶさ」、そして未来へ

式典後の同講堂にて、一般の方々も含む約550人を対象に、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトに携わった吉川氏の講演が行われました。7年1か月の時を経て小惑星「イトカワ」の表面から物質を採取し、搭載カプセルが地球に帰還するという、世界初の挑戦を成し遂げたプロジェクトの内容が写真とともに紹介されました。故障した部品が奇跡的に復旧したことや「計画は想定外の連続だったが、トラブルに打ち勝つ忍耐とチームワークがあった。」と成果を語る吉川氏の言葉に会場者は諦めずに頑張り続けなければいづかいは実を結ぶというメッセージを感じました。



JAXA
吉川 真 准教授

講演の最後には、幼い子どもが、目をきらきらさせて吉川氏に大人顔負けの質問を投げかける場面もあり、会場は何ともいえない和やかな雰囲気になりました。

ホームカミングデー～卒業生のみなさんと在学生、教職員の交流会～

70周年記念式典、記念講演の後、母校に来られた卒業生、名誉教授の皆さま方と、在学生ならびに教職員が親しく交流する場として、本学食堂にてホームカミングデーが行われました。久々の再会や交流をとおして、会場は華やかに盛り上がりしました。

参加者の声

在学生とつながった卒業生

昭41・保育科卒
国広 勝代さん（山口福祉文化大学・教授）



「はやぶさ」の記念講演を聴きに行くからお宅に泊めてね!と同級生二人（県外と市外）から連絡があり、当日は、記念講演を聴いて三人一緒に「ホームカミングデー」に参加しました。現在の校舎に思い出はないものの、人を介して話題はすぐに学生時代のこと。そして、懐かしい先生方のスピーチ、学生歌、思い出写真のスライドショーなど卒業生に至れり尽くせりのおもてなし。さらに、ケーキ・焼ききたてパン・チョコレートファウンテン・ソフトドリンクなど恥ずかしさをどこかに預けたおばさん達の要求に笑顔でサービスしてくれる在学生にみんなメロメロ・・・。「若いっていいねー!!」自分の過去に思いを馳せただけでなく、今の学生さん達とのつながりを感じたひとときでした。



①1人ずつ学長から火をもらい



②一言ずつ想いを述べて



③最後は学長が点灯し



④全員で吹き消しました。



参加者の声

先輩方から受け継ぐ大切な歴史

社会福祉学部社会福祉学科 2年
川口 里美さん



今回、私は、ホームカミングデーアテンドボランティアという形で、ホームカミングデーに参加させていただきました。当日は、卒業生の方を受付でお出迎えしたり、会場内でおもてなしをしました。当時の学校の様子など、普段は聞けないお話をたくさん聞くことができ、多くの卒業生の方と交流できたことで、改めて70年という歴史を感じる事ができました。この節目の年に、このような形で参加したことは、とても貴重な経験となりました。多くの先輩方が築いてきた歴史を大切に、私たち自身も新たな歴史を刻んでいきたいと思います。

Topics

■ 本学卒業生、世界へ羽ばたく

おおた まい
大田 舞さん、フィンランド「マリメッコ」のファッションデザイナーでデビュー

本学卒業生の大田 舞さんが、日本人として初めて、フィンランドを代表するブランド「marimekko(マリメッコ)」のファッションデザイナーとしてデビューすることが決まりました。大田さんは、本学生活科学部(当時)を03年に卒業後、同年9月からフィンランド「国立ヘルシンキ芸術デザイン大学(現アールト大学)」の大学院に留学し、修了後、マリメッコの社員デザイナーとして勤務、今年1月に独立。マリメッコのファッションデザイナーの1人として選ばれました。

7月11日には、本学を訪れて、在学生約90人を前に講演を行い、「なりたいたと強く思っで頑張れば、周りの人も助けてくれる」と様々な経験を語る大田さんに、在学生は大きな力をもらいました。

今年の秋・冬物から「マイ・オオタ」デザインが国内外に並び、本学卒業生が世界へ羽ばたきます。



Campus Schedule

10

OCT

後期授業開始

11

NOV

華月祭、推薦選抜試験、社会人特別選抜試験

12

DEC

大学院入学試験、冬季休業

1

JAN

授業再開、大学入試センター試験

2

FEB

後期末試験、個別学力検査(前期日程)、外国留学生特別選抜試験

3

MAR

個別学力検査(後期日程)、卒業式、春季休業

■ 本学への寄付(H23年度上半期分)H23.9.15現在

- (株)モルテン
- 山口県立大学教育後援会
- 生活協同組合コープやまぐち(寄附講義)
- 匿名(山口市民)
- 濱田博子 様

計5件

合計3,587,024円

ありがとうございました。



■ 編集後記

平成23年9月秋分の日 木村 泰則(経営企画部長)

今回の広報誌は、卒業生に視点をあてて編集しました。県内で活躍する卒業生、70周年記念式典に来られた卒業生、世界デビューをする卒業生。

取材を通して感じたことは、みなさんが「今」を輝いておられること、母校を愛しておられることでした。

母校への熱い思いに接するとき、我々も卒業生との結びつきを強めていきたい、また、教育研究はもとより、大学の総合的な魅力アップに精進しなければならないと強く感じました。

時代はグローバル化が進展しています。地域に根ざしつつ、世界にも視野を広げて、本学の将来像をしっかりと描き、大学経営を行ってまいりたいと考えています。

皆様からの広報誌へのご意見、ご感想をお待ちしております。



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>
※Web動画配信も行っています。

英語教員を目指す学生が子どもに英語を教える目的で結成した「Kid's English」の活動の様子です。

ボーイスカウト山口県連盟「きらら浜ミニジャンボリー2011」(本年6月)

